

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護援助論Ⅰ (運動器)	対象学生	第2学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第1学期
担当講師	看護師 竹内 友美(臨床経験13年、教育経験8年)				
科目目標	1. 運動器疾患による健康障害をもつ対象への看護が展開できるための知識・技術を習得する。				
授業概要	第1回～第10回 運動機能障害のある患者の看護:20H 担当:看護師 (講義)				
	第1回 症状のある患者の看護 1) 関節異常 2) 神経麻痺(神経障害) 3) 循環障害とフォルクマン拘縮 4) 感染 5) 疼痛 6) 深部静脈血栓症 7) 廃用症候群				
	第2回 検査を受ける患者の看護 1) 関節可動域<ROM>検査、徒手筋力<MMT>検査 2) 脊髓造影検査、椎間板造影検査 3) 関節造影 4) 膝関節鏡 5) 骨密度 5) 筋生検				
	第3回 主な治療を受ける患者の看護 1) 保存療法:ギプス固定、牽引療法を受ける患者の看護 2) 理学療法:関節可動域訓練(自動・他動運動)、歩行訓練・介助(転倒予防)、歩行補助具の選択 3) DVT予防の看護(下肢の計測、弾性ストッキング装着、AVインパルス)				
	第4回 主な治療を受ける患者の看護 1) 手術療法:人工関節置換術、人工骨頭置換術 (手術前の看護:患肢の直達牽引、呼吸訓練、全身状態の観察、皮膚の清潔) (手術後の看護:患肢の保持、腓骨神経麻痺の予防)				
	第5回 主な治療を受ける患者の看護 (演習) 1) 保存療法:ギプス固定、牽引療法を受ける患者の看護 2) 理学療法:歩行訓練・介助(転倒予防)、歩行補助具の選択(松葉杖の計測含む)				
	第6回 主な治療を受ける患者の看護 (演習) 1) 理学療法:関節可動域訓練(CPM 持続的他動運動) 2) DVT予防の看護(下肢の計測、弾性ストッキング装着)				
	第7回 主な疾患の患者の看護 1) 大腿骨頸部骨折 2) 腰椎椎間板ヘルニア				
	第8回 主な疾患の患者の看護 1) 脊髄損傷 2) 変形性膝関節症				
	第9回 主な疾患の患者の看護 1) 関節リウマチ 2) 四肢切断後				
	第10回 まとめと終了試験				
	第11回～第15回 事例による看護過程の展開(大腿骨頸部骨折患者の事例):10H 担当:竹内 友美				
	第11回 大腿骨頸部骨折患者の情報の整理 1) 身体的側面:高齢者の骨折の特徴、全身状態の観察、脱臼、腓骨神経麻痺の予防、治療による活動制限に伴う ADLの低下、廃用性症候群、加齢に伴う変化を理解し、必要な看護を思考する。 2) 心理的側面:合併症への不安、治療に伴う不安、入院生活への適応障害、人格と尊厳を理解し必要な看護を 思考する。 3) 社会的側面:社会的役割の中断、家族役割の変化、価値観、生活史を理解し、必要な看護を思考する。				
	第12回 大腿骨頸部骨折患者の情報の分析 (GW)				
	第13回 大腿骨頸部骨折患者の情報の分析 (GW)				
	第14回 看護問題の明確化 (GW)				
	第15回 看護計画 (GW)				
看護師国家試験出題基準					
深部静脈血栓症、肺梗塞、姿勢機能障害、移動機能障害、作業機能障害、生命・生活への影響、関節可動域<ROM>検査 徒手筋力テスト<MMT>、脊髓造影、椎間板造影、ギプス固定、牽引法、人工関節置換術、関節リウマチ、椎間板ヘルニア 四肢切断後					
授業の進め方					
講義を中心とするが、主な治療を受ける看護では、デモンストレーションや演習を取り入れる。 看護過程の展開では、グループ演習を取り入れ教授する。					
履修のポイント・留意事項					
既習内容である「老年看護学概論」の加齢に伴う変化を想起し学習する。 形態と機能、疾病・治療論、病態診断学等の学習内容を想起する。 この科目では、成人看護学実習の運動障害のある患者の看護と老年看護学実習へつながる老年期の 対象を理解するための基礎となる学習をする。					

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護援助論Ⅰ (運動器)	対象学生	第2学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第1学期
担当講師	看護師 竹内 友美(臨床経験13年、教育経験8年)				
テキスト	系統別看護学講座「老年看護学」医学書院、系統別看護学講座「成人看護学」[10]運動器 医学書院				
評価方法・配点	終了試験(第1回～第10回 終了試験(100点)、第11回～第15回 課題提出(100点))課題レポート、 学内演習、事例演習・発表グループへの参加状況で総合評価する。				